

コミュニティ・スクールだより

4月30日（金）に、今年度第1回目の第九小学校学校運営協議会が開催されました。主な内容は、以下のとおりです。

I 館林市教育委員愛より委嘱状を交付された学校運営協議会委員を紹介します。

なお、会長には、家富 秀和様、副会長に、赤坂 一郎様が選出されました。

【学校運営協議会委員】（敬称は、省略します。）

役 職	氏 名	所 属
委 員	鈴木 久雄	区長協議会会長
会 長	家富 秀和	障害者・高齢者施設職員
委 員	堀越 一孝	民生委員・児童委員協議会会長
委 員	吉永 正行	P T A会長
委 員	小森 秀行	九小区子ども育成会会長
副会長	赤坂 一郎	生産指導員
委 員	小島 康志	地域コーディネーター
委 員	小泉 淳	第一中学校長
委 員	菅原 弘美	渡瀬保育園長
委 員	酒井 一好	渡瀬公民館長
委 員	原 真理子	第九小学校長
委 員	田野入 康裕	C Sディレクター

II 協議「学校経営方針について」（進行：家富会長）

1 学校長より学校経営方針の説明（学校経営案参照）

学校教育目標の基本目標として、「未来を見つめ心豊かに生きる子ども」を挙げ「自ら学ぶ子」「思いやりのある子」「明るく元気でたくましい子」の育成を目指し、取り組んでいる。今年度の目指す児童像は「自分の力を伸ばそうとする児童」とした。

目指す学校像としては、次のように考える。

学校経営方針は、6つの方針を掲げたが、努力点を以下のように3つ挙げ重点方針とした。

1 学力向上 学習の基盤・個に応じた指導・学習の定着

○ユニバーサルデザインを意識した学級経営と授業づくりを行う。

・個々の性格や行動傾向を把握し、配慮や支援を行う。hyper-QUの実施。

○学力に結びつく意味のあるICTを活用した授業づくりを行う。

・積極的に研修に取り組む。

2 コミュニティ・スクール 社会に開かれた教育課程

○学校教育が充実するために必要な地域資源の活用を行う。

・教育課程において地域資源の有効性の確認と精選を行う。

○九小の特色として取り扱う地域教材を見直し、見いだす。

3 信頼される職員 子どもの成長のためにやりがいをもち、効率的に働く職員

○勤務時間と仕事内容を見直し、効率的に働けるように努力する。

○職員一人一人の力を発揮できる職場へ。

2 学校経営方針の承認

学校長の学校経営方針は承認されました。（承認10名 否認0名 保留(欠席者)1名後日承認）

Ⅲ 熟議 「学校課題」「今年度の具体的活動」について、熟議を行いました。

A班

- 学力向上には、子どもの実態をまず把握し、個に応じた指導、個別の支援、指導の工夫をしていくこと。
- 子どもの実態として、視力の低下、運動不足、体力の低下も見られる。
- 子どもに1人1台パソコンの導入。意味のある使い方、職員が使い慣れることが必要だ。
- 登校を渋る子ども、不登校傾向の子どもへの支援・対応は、チームを組んでしていかななくては。
- 小学1年生のランドセルの重さにびっくり。どうにかならないものか。
- 九小は職員が少ない。九小学校運営協議会として、職員の増員を希望したい。
- コミュニティ・スクール関係では、地域資源の活用は、十分できている。新たに増やすことのメリットは。
- どんな組織の精選が必要で、どんな方々が新たに必要か。
- 低学年と高学年の下校時刻が違う。下校時の見守りの確認。
- 大学生のボランティアは、パソコンの手伝い等、職員の業務軽減につながる。
- 九小の特色として、地域教材をどのように活用していくかが肝要。
- 水害に関しての学習、地域を活性化するための手立て、などの必要感は。

B班

- 見守り隊で、九小の子どもにかかわっているが、1・2年経つうちに、あいさつしてくれるようになってきた。時間がかかる。
- 高学年があいさつの見本を見せる。あいさつ運動週間を作る。地域では、大人から声をかける。
- 学力面では、まずは子どもに伝える指示を分かりやすくする必要がある。
- ICTを活用した授業⇒⇒ボランティアに指導してもらう。
- 学習に対して、家庭によって関心の差がある。地域でどうにかできないものか。
- 登校しぶり。対応で、職員一人がかかわることになる。放課後おさらい教室で、学力補充することも。
- 地域を知る活動では、地域の方が話をしてくれるとインパクトになる。地域行事、神楽、例大祭など。
- 体力向上では、登下校で体力がつくはず。車で送迎する保護者は、子どもの育ちを奪っているのでは。
- 保育園との交流は、1年生だけでなく、他学年との交流も価値があるのでは。

C班

- 学力向上を図るとき、教職員の負担を減らすことも方策。授業への支援、書写、パソコン、ミシンなどボランティアを活用する。地域で、先生OBを探すことも考えられる。
- 教職員の負担が減れば、子どもに目を向けられる時間が増える。
- 地域の学習では、地域の人材を発掘していく。地域学習は、子どもが家庭で話題にする。親や兄弟姉妹も関心をもつようになる。
- 地域に愛着をもっている子どもがいて、下校時にゴミ拾いをしている子たちがいる。地域のクリーン運動につながるのではないか。
- 地域の防災訓練をとおして、地域の人たちのつながりになる。
- 子どもの安全面を、地域で守れるとよい。例えば、ノーヘル自転車児童に注意ができるとよい。
- 子どもの声、ニーズを聞いて、それに沿った支援、ボランティアができるとよい。

保護者及び地域の皆様、ご意見やご提案等、よろしくお願いします。

九小コミュニティ・スクール事務局【72-4071（担当：田野入または岩崎教頭）】